



3年後の世界大会でも

優勝を目指す

いわくら ひろあき
岩倉弘晶さん



世界大会で見事優勝

7月19日からチェコ共和国で開催された「SKIF第13回世界空手道選手権大会」で65級第3位、無差別級準優勝、団体組手で優勝という成績を収めた岩倉弘晶さん(東町)。国内でも全国空手道選手権大会一般の部70級で3年連続優勝を果たしている。

天国に逝った父の願い叶える

幼い頃、自分の気持ちを表現することが苦手だった弘晶さんに空手を勧めたのは父の俊之さんだった。その俊之さんは、弘晶さんが中学3年生のときに他界。その後も空手を続け開誠館高校へ進学すると、3年時にインターハイで5位入賞した。成人してからも国内外の大会で優秀な成績を収めている。「空手は勝つ喜びが得られ、精神的に強くなる」と話す弘晶さん。天国の父親は現在の弘晶さんを見て安心していることだろう。

父から引き継いだ道場を運営

弘晶さんが運営するのは、松濤館に所属する「新風館」。父親が運営していた空手道場

を2歳年上の兄である永幸さんと引き継ぎ、周囲の人の協力を得ながら空手の素晴らしさを大勢の人に伝えている。

「新風館」は、週に3回、牧之原中学校と萩間小学校の道場を借りて稽古に励んでいる。最近では、自分の稽古より道場の子どもたちへの指導に重きをおいているという弘晶さん。その中には今夏、東京都で開催された「全国空手道選手権大会」の小学2年組手の部で優勝した第一小2年の山下慎之助くん(早苗町)や3位になった息子の空凜くんもいる。この将来有望な2人に対し、「空手を長く続けてほしい」と思いをめぐらす。

日本の空手を世界に広める

弘晶さんは、これまで世界大会に5回出場しており、昨年度は個人組手で優勝を果たしている。

「3年後の東京で開催される世界大会では優勝するだけでなく、日本代表として礼儀を重んじる精神を世界にみせたい」。空手道という終わりのない道を歩む弘晶さんが、これからも空手界をけん引していく。